

令和6年度
国土交通省 国土政策局
移住等の促進に向けた実証調査

実施結果報告書

概要版

令和7年3月

合同会社KAZAMI

【問い合わせ】
合同会社KAZAMI
菅野 審也
info@kazami.llc

(1)背景と目的

鹿児島県の離島に位置する奄美市は、人口40,223人で過去10年間で約3,000人の人口減少が続いている。鹿児島県は令和6年度～令和10年度の「奄美群島振興開発計画」で、5年間で奄美群島への移住者数7,000人を目標に掲げている。

本取り組みでは、奄美市における「新しい働き方」を発掘し、二地域居住及び転職なき移住を促進することを目的としている。さらに、オンラインや複業、兼業という「新しい働き方」における地域コミュニティへの入り口や新しい関わり方を創出することを目指している。

(2)取り組みの概要

1. 島のリモート複業マッチング「リトリモ」の開発・運用

- 奄美大島への移住希望者と奄美の地元企業をリモートワークでつなぐ複業マッチングサービス
- 移住者と地域住民や企業の間に入るコーディネーターを育成し、ミスマッチを解消

2. 移住マッチングツアーの実施

- 2月7日～9日の2泊3日で移住体験ツアーを実施
- 先輩移住者との交流や企業・不動産見学を含むプログラム

(3)主な成果と知見

1. 島のリモート複業マッチング「リトリモ」の成果

- ユーザー登録数473件(奄美群島の移住目標の約40%相当)を獲得
- ユーザーの移住意向度は「二地域居住を希望している」が約42.7%と全国平均(27.9%)より高い
- 発掘された求人数18件、掲載求人数12件、求人への総エントリー数36件、マッチング成立4件
- 掲載求人の職種傾向としてデザイナー、SNS運用の求人が目立つ
- マッチングした4件中2件は島内在住のIターン者であり、オフラインでのコミュニケーションが取れることも採用理由として挙げられた

2. 移住マッチングツアーの成果

- 合計4組5名が参加(40代女性2名、60代女性1名、30代女性1名、中学生男子1名)
- 「移住の先輩たちとの交流」「不動産見学」が参加者から高評価
- 現実的な住居費や給与水準を知ること、安易な移住を思いとどまらせる抑止力となり、不幸なミスマッチを防ぐ効果があった
- 参加者の多くは「もっと慎重に検討することが必要」と認識

(4)課題

1. 地域事業者側の課題

- リモートワークや複業の活用に対する知識不足
- コミュニケーションコストの高さ

- デジタルリテラシーが十分でない事業者への対応
- 「顔が見えない」リモートワークへの抵抗感

2. 求職者側の課題

- 希望する求人が十分に提供できていない(有効求人倍率2.3%)
- 運営に求めるサポートとして「企業から直接オファーが届くスカウト機能」や「移住支援」のニーズが高い

3. 移住希望者向けの課題

- 移住や就業につながる可能性の高い人の効果的な集客方法
- 移住意向度が強い方に向けた、ネクストアクションにスムーズにつなげる仕組みの不足
- 二地域居住希望者のための「暮らすように滞在する」ゲストハウス・シェアハウスの不足

(5) 今後の展開

- 4月: 地域の採用支援事業者と協業し事業の切り出し強化、「地域の人事部」の推進
- 5月: 「顔が見えない」不安を払拭するための「信頼の可視化」システム開発
- 6月: 地元企業との全国向け求人キャンペーン開始、ユーザーの有料化とコンテンツ拡充
- 秋以降: 奄美への企業視察(地元企業との全国キャンペーンの一環)を実施

(6) まとめ

奄美市における移住促進においては、リモートワークや複業という新しい働き方を取り入れることで、移住の障壁を下げ、段階的な関係性構築が可能となることが示唆された。また、移住希望者に対して現実的な情報提供を行うことで、ミスマッチを防止する効果も確認できた。今後は地域の価値観を反映したサービス設計と事業者への伴走支援の強化が求められる。